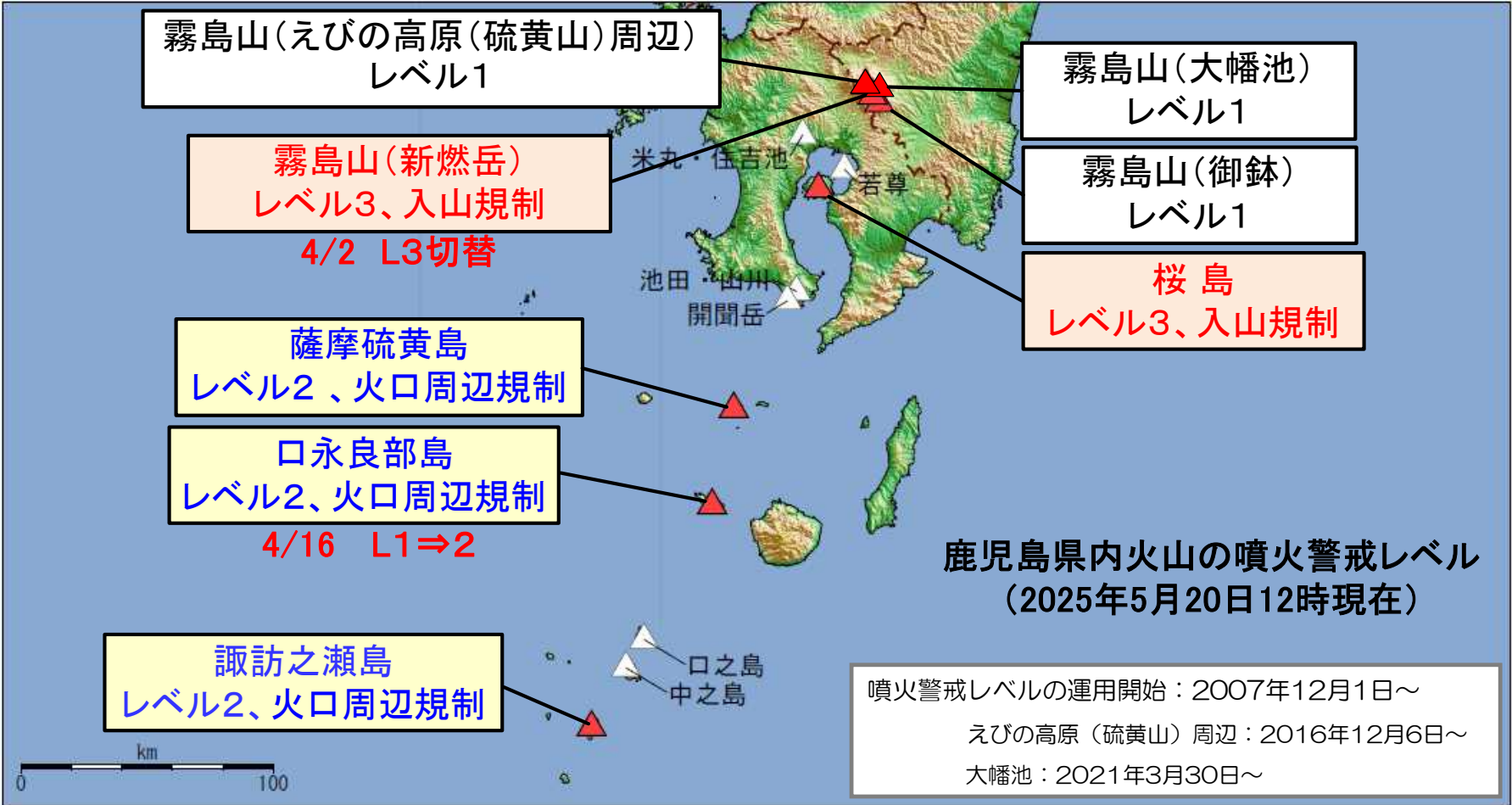


鹿児島県の火山活動概況

2025年4月～2025年5月18日

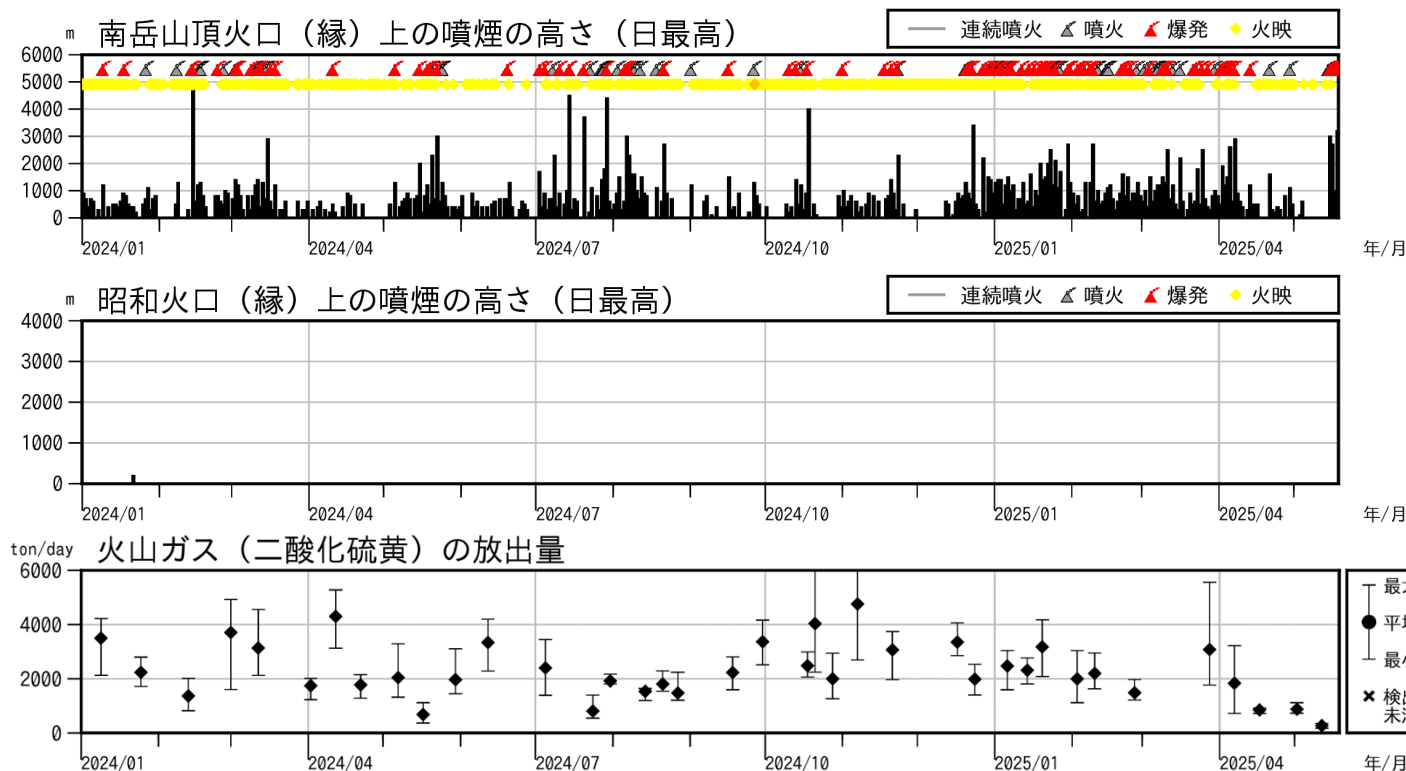


桜島 噴火警戒レベル3(入山規制)

警戒範囲: 火口から概ね2km
(2022年7月27日20時00分発表)

4月以降の主な状況

活動評価	始良カルデラ（鹿児島湾奥部）の地下深部にマグマが長期にわたり蓄積した状態であり、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は概ね多い状態であることから、今後も噴火活動が継続すると考えられる
噴火活動	[南岳山頂火口] 山体膨張に伴い噴火回数が増加、連続噴火も2回発生 噴火回数 5月(18日まで):59回（うち爆発:36回）4月:21回（うち爆発:12回） 5月18日18時54分の爆発：噴煙の高さは火口縁上3200m [昭和火口]（ごく小規模含め）噴火は発生せず
火山ガス	二酸化硫黄の放出量はやや多い状態 300～1800トン/日（4月～5月18日）

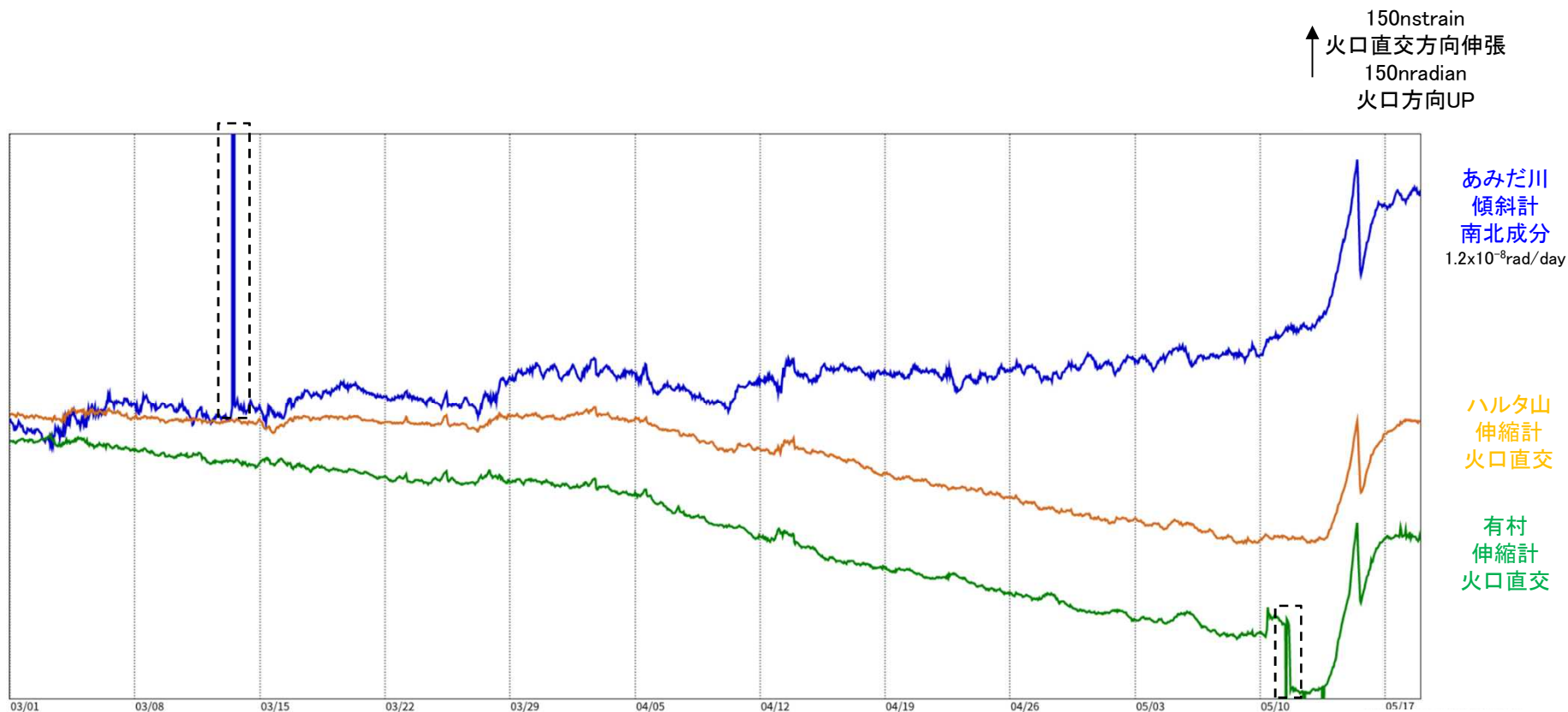


桜島 噴煙・火山ガス活動推移(2024年1月～2025年5月18日)

4月以降の主な状況

傾斜・伸縮

5月12日20時頃から15日11時30分頃まで山体膨張を示す地殻変動
15日15時30分頃まで噴火により一時的に山体収縮
その後は再び山体膨張に転じている



傾斜計及び伸縮計による地殻変動の状況(2025年3月～5月18日)

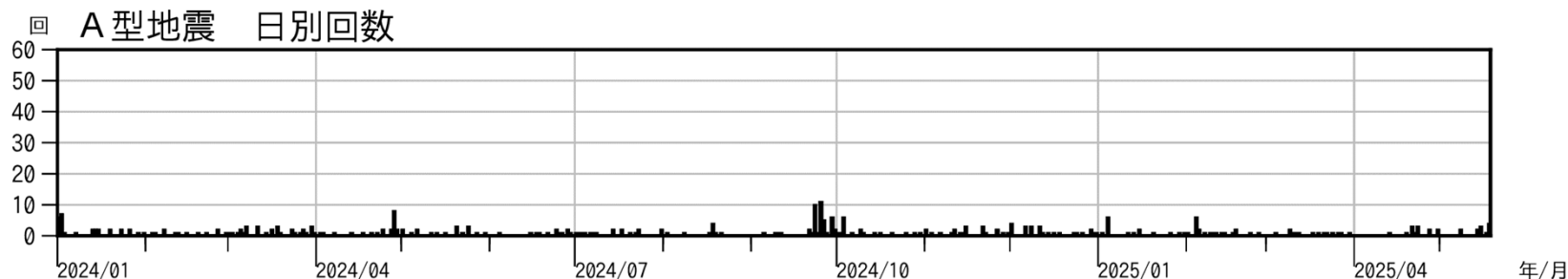
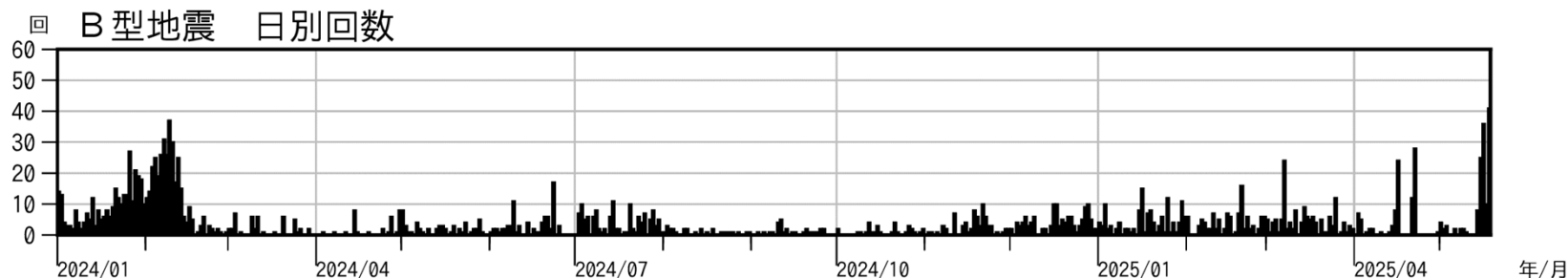
※破線内は機器点検によるデータの飛び

※あみだ川観測点は北側が下がる傾斜変動を火口側が上がる変動とみなして表示、長期的に北側が上がる傾斜変動($1.2 \times 10^{-8} \text{ rad/day}$)がみられていることから、これを補正したうえで表示

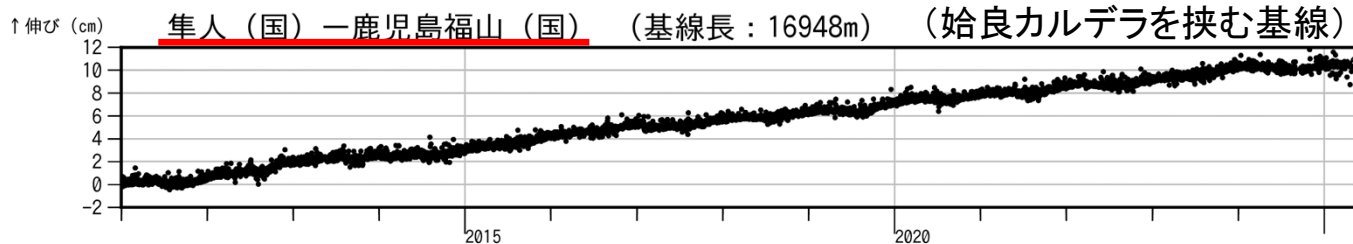
桜島 噴火警戒レベル3(入山規制)

警戒範囲: 火口から概ね2km
(2022年7月27日20時00分発表)

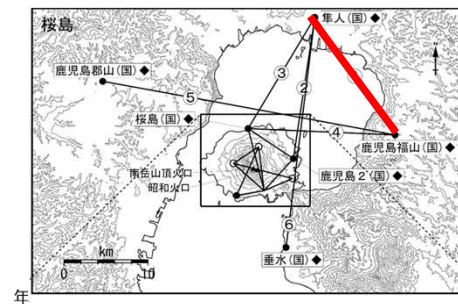
	4 月以降の主な状況
震動現象	少ない状態で経過
G N S S	長期にわたり始良カルデラの地下深部の膨張を示す緩やかな伸び



桜島 地震活動推移(2024年1月～2025年5月18日)



桜島 GNSS基線長変化図(2011年1月～2025年5月18日)

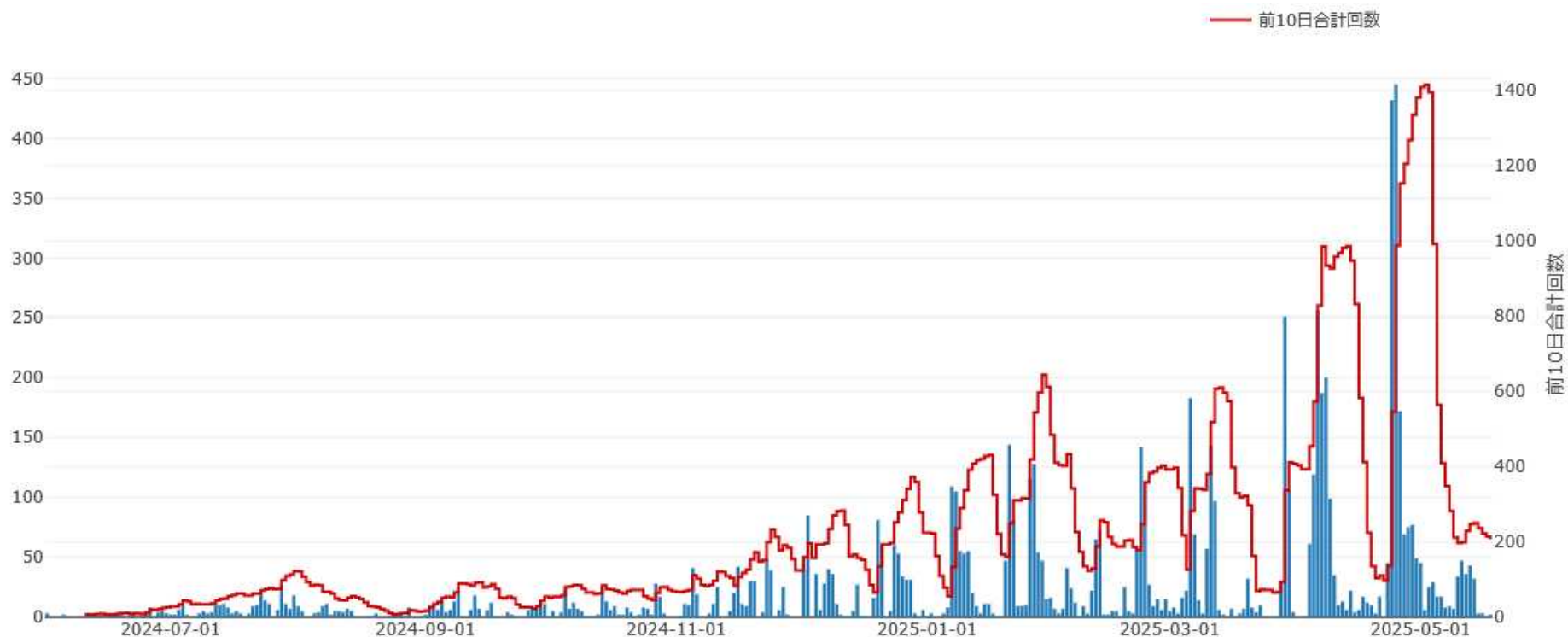


新燃岳 噴火警戒レベル3(入山規制)

警戒範囲: 火口から概ね3km
(2025年4月2日11時00分発表)

4月以降の主な状況

活動評価	火山性地震が増減を繰り返す・新燃岳付近の地下の膨張、火山活動が高まった状態
震動現象	[地震] 2024年10月下旬頃から火口直下を震源とする火山性地震が増減を繰り返している [微動] 4月27日、5月1～2日に継続時間の長い火山性微動が発生



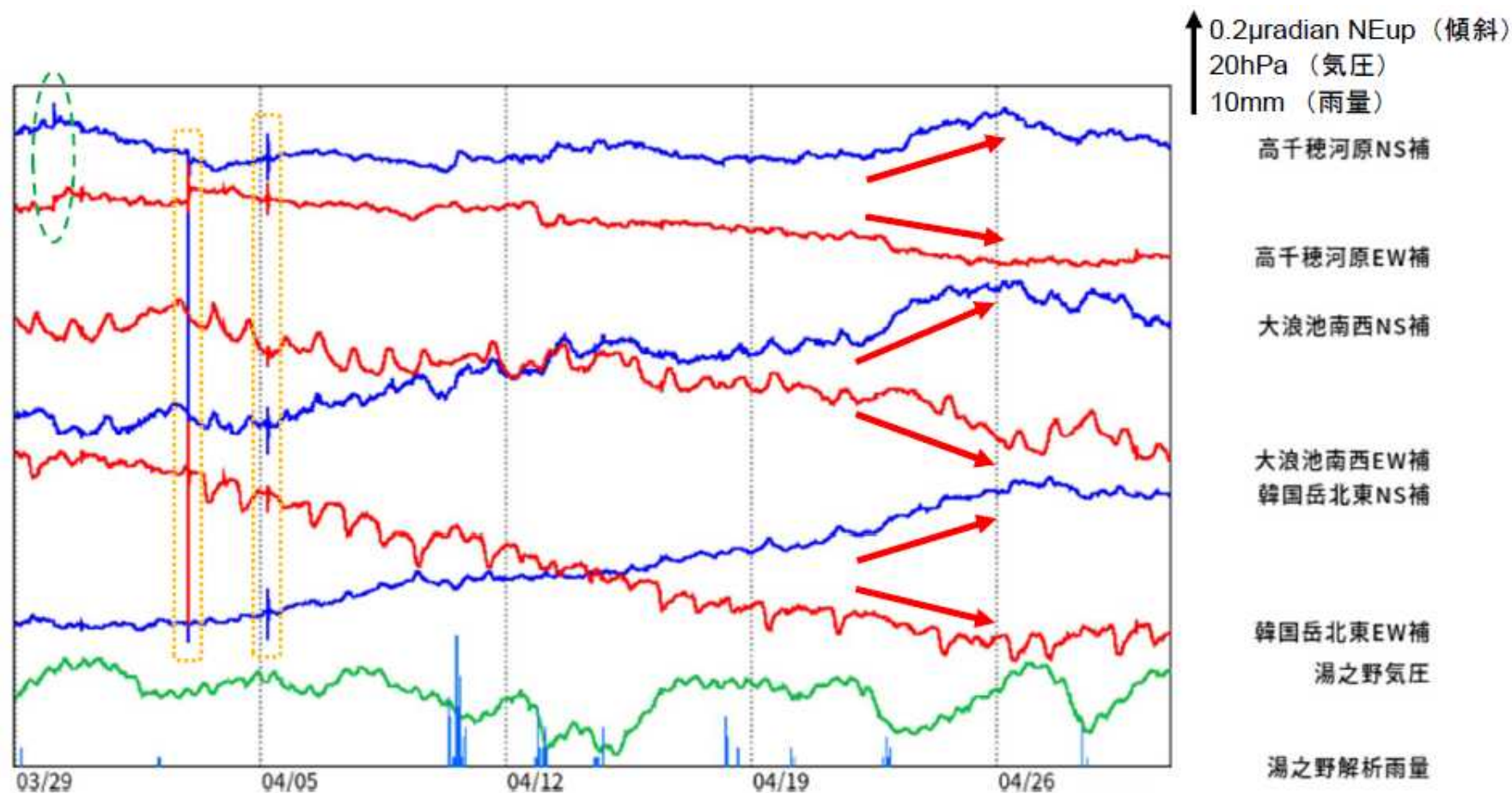
新燃岳 火山性地震日別回数(2024年6月～2025年5月18日)

新燃岳 噴火警戒レベル3(入山規制)

警戒範囲: 火口から概ね3km
(2025年4月2日11時00分発表)

4月以降の主な状況

傾斜変動 新燃岳周辺の複数の傾斜計では、4月22日から26日にかけて北西上がりの緩やかな傾斜変動が観測された(図中の赤矢印)



新燃岳 傾斜計による地殻変動の状況(2025年3月29日~4月30日)

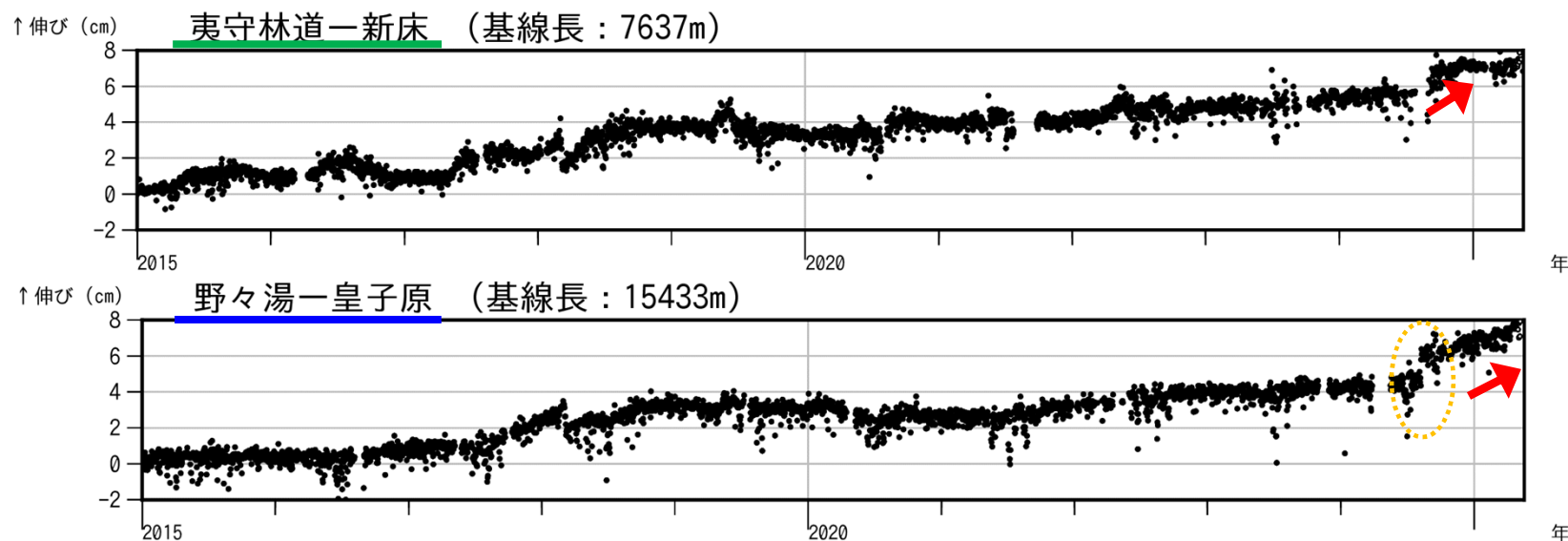
※図中の緑色破線内は3/30にみられた山体膨張を示す地殻変動

新燃岳 噴火警戒レベル3(入山規制)

警戒範囲: 火口から概ね3km
(2025年4月2日11時00分発表)

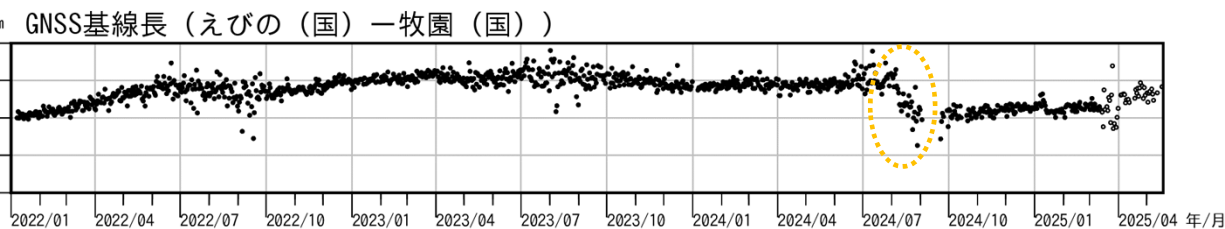
4月以降の主な状況

GNSS 2024年11月頃から、霧島山を挟む一部の基線で新燃岳付近の地下の膨張を示すと考えられるわずかな伸びが認められる。霧島山深部の膨張を示す変化は認められない。



新燃岳付近 GNSS 連続観測による基線長変化(2015年1月~2025年5月18日)

※橙色の破線は2024年8月8日の日向灘の地震による変動を示す



霧島山 GNSS 連続観測による基線長変化(2022年1月~2025年5月18日)

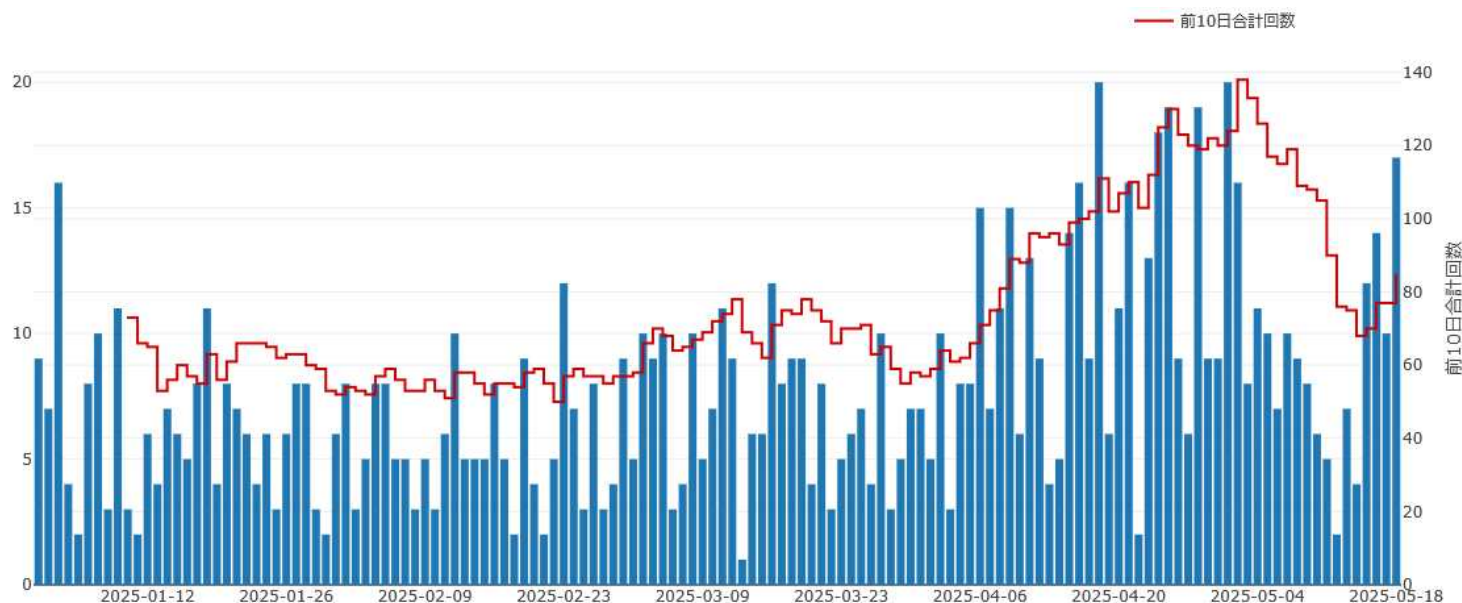
※橙色の破線は2024年8月8日の日向灘の地震による変動を示す

口永良部島 噴火警戒レベル2(火口周辺規制) (2025年4月16日23時25分発表)

警戒範囲:新岳・古岳火口から1km、西側2km

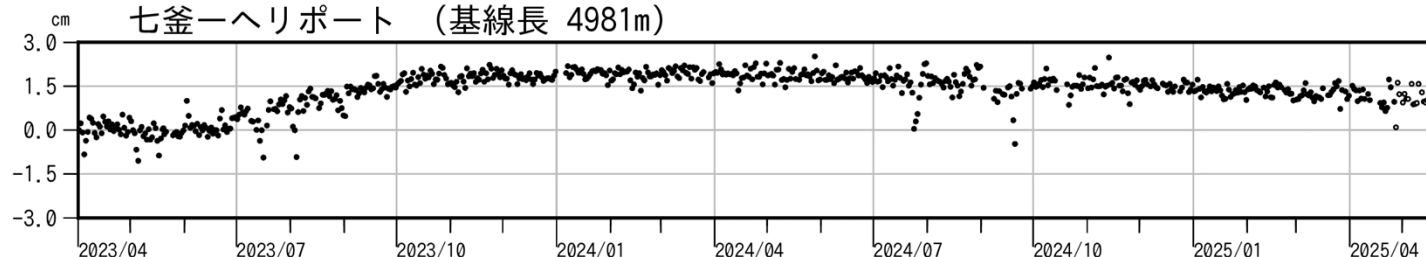
4月以降の主な状況

活動評価	火山活動が高まった状態、新岳火口及び古岳火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生する可能性
震動現象	4月のはじめ頃から古岳火口付近で火山性地震が増加、山体の浅いところで地震活動が活発化
G N S S	2023年11月以降、山体の膨張を示す変動は認められない



口永良部島 火山性地震日別回数(2025年1月～2025年5月18日)

七釜一ヘリポート (基線長 4981m)



口永良部島 GNSS 連続観測による基線長変化(2023年4月～2025年5月18日)

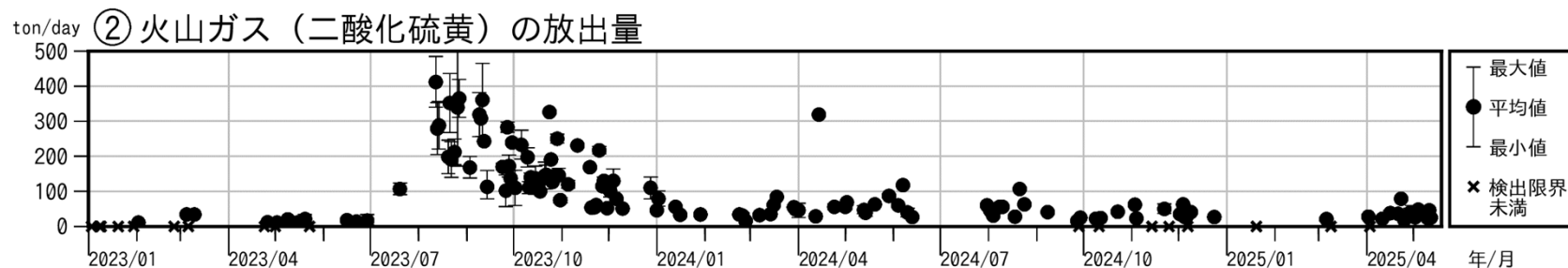
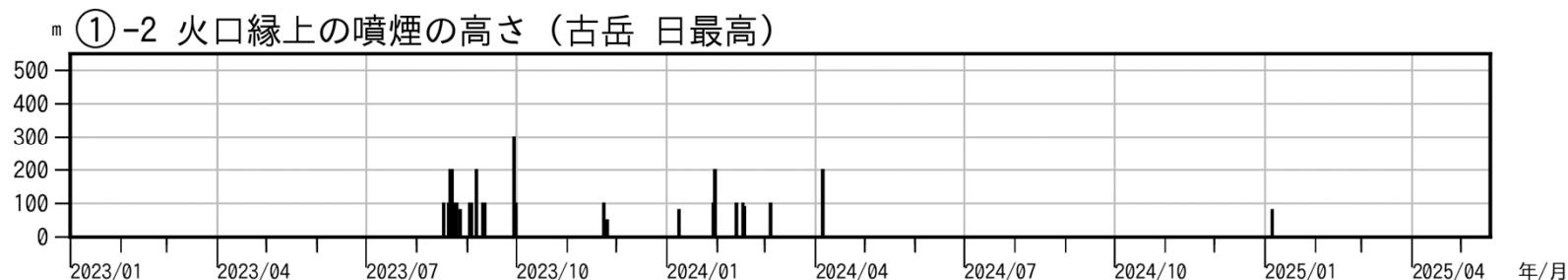
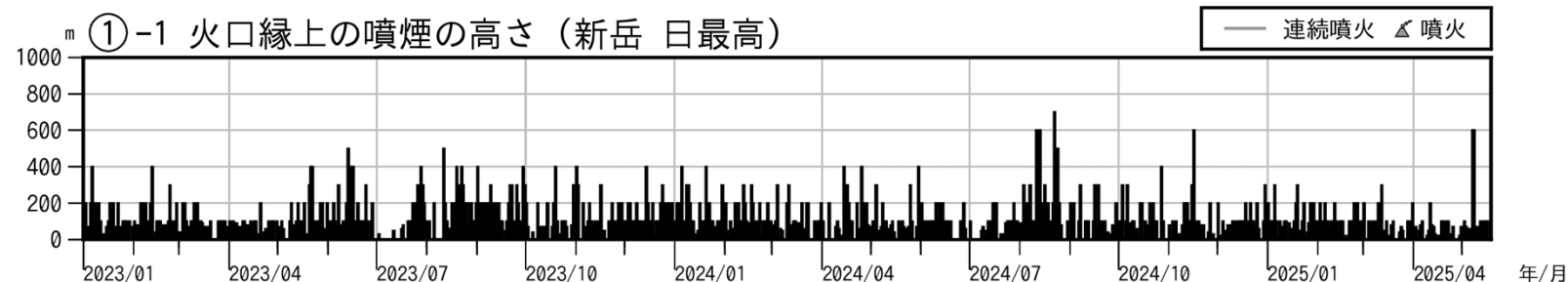


○新岳火口 ○古岳火口 ●七釜一ヘリポート ●GNSS観測点
●は新岳火口から約1km、古岳火口から約2kmの範囲に設置されています。

警戒範囲:新岳・古岳火口から1km、西側2km
口永良部島 噴火警戒レベル2(火口周辺規制) (2025年4月16日23時25分発表)

4月以降の主な状況

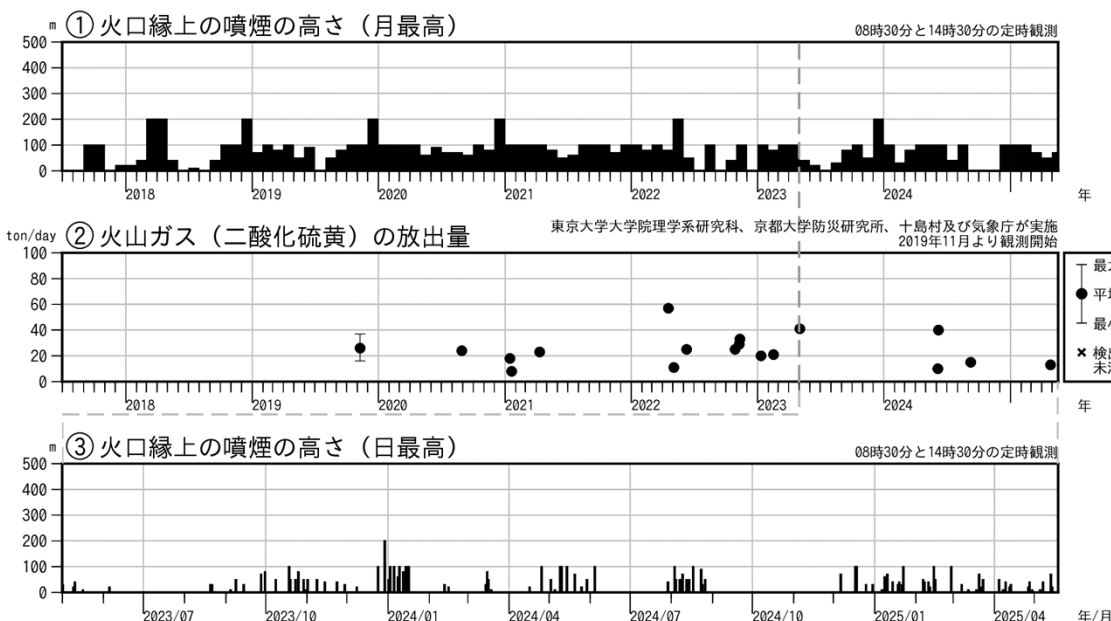
噴煙活動	[新岳火口] 白色の噴煙を観測 最高600m [古岳火口] 監視カメラでは火口縁を越える噴煙は観測されていない
火山ガス	二酸化硫黄の放出量は1日あたり20~80トンと少ない状態で経過 検出限界を下回る日もみられる



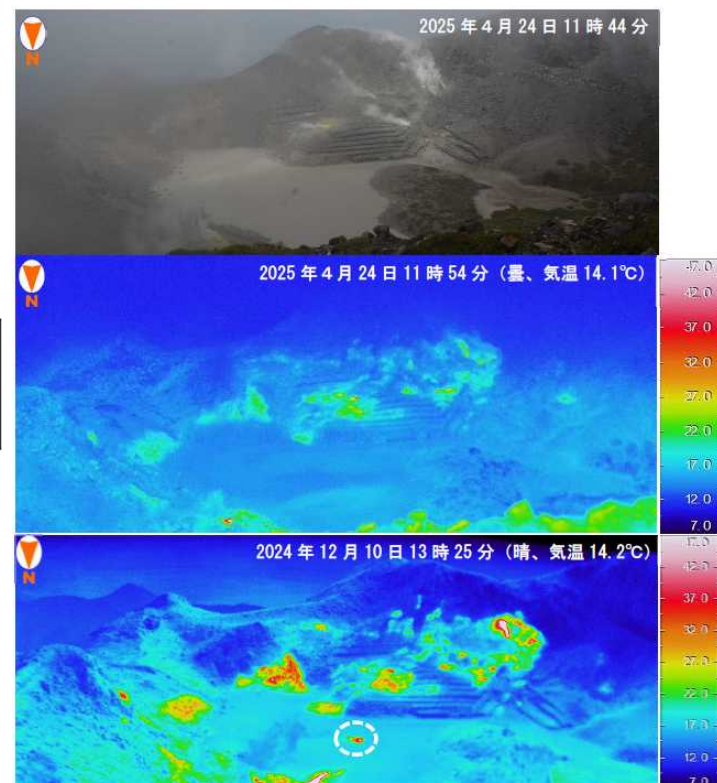
口永良部島 活動経過図(2023年1月~2025年5月18日)

4月以降の主な状況

活動評価	火山活動に特段の変化はなく静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない
噴煙活動 現地調査	白色の噴煙が最高で火口縁上70mまで上がった。 現地調査では、火口内斜面の複数箇所から白色噴煙を確認。 火口内斜面及び火口底で地熱域を確認、前回観測と比較して特段の変化無し。
火山ガス	二酸化硫黄の放出量は10トン/日と少ない状態



中之島 活動経過図(2017年7月～2025年5月18日)



中之島 御岳南側火口壁内の状況
(上図: 2025年4月24日、下図: 2024年12月10日)
※白色破線内は火口底の噴気孔を示す